

「思い出のとき修理します」(今瀬結衣)

[おすすめしたい本: 谷 瑞恵『思い出のとき修理します』(集英社文庫)]

日常ものはキレイ。本は好きだけど、読むのは現実と懸け離れた世界観のものばかり。本に現実逃避の役割を求めていた私は、どうしても“日常もの”が好きになれず、その手のものはなるべく避けてきた。ところが中三の春頃、

「これすっごくいいから読んでみなよ！」

と友だちが薦めてきた。あまりにも薦めてくれるので、そんなにいいって言うなら…と思って読み始めた『思い出のとき修理します』は、私の“日常もの”に対する思いをガラッと変えた。一卷を読み終えたとき、なんてあったかい物語だろうと思った。心に沁みる、なんて本に使っていい言葉なのか分からないけれど、肺一杯に空気を吸い込んだ時の喉がキュッと絞まる、何とも言えない感覚が私を満たしていた。

当時、うまくいかないことばかりで孤独を感じていた私の心を埋めてくれた。仕事にも恋にも疲れ果てた明里の姿は、どこか私と重なって見えた。その、主人公明里がある商店街に引っ越して、“おもいでの時修理します”のプレートがかかった、思い出も直してしまう時計の修理屋さんの秀司と出会い、いろいろな人の思い出に触れていく。簡単に書くとそんなストーリーになっている。短編小説のように読みやすいのに、何処かで繋がっていて、一つ一つの話がドラマチックにおもしろい。恋の要素も入っていて楽しめる。

本は、私が知らない事を教えてくれる。過去を超え、今を懸命に生きる私たち。そんな中、壊れて直らないとは思いつつも大切に抱えている思い出はないだろうか？私には、ある。幸せだった記憶さえなかった事にしたくなるようなものが。今度、秀司のお店に行こうと思う。壊れた思い出を持って。

「いらっやいませ、修理ですか？」

と言う秀司の声が聞こえる気がした。この本に出合えて、よかった。